

何故か見知らぬ
場所にいる三玖

辺りには海と浜辺と
見知らぬ少年たち

目が覚めた三玖に
少年たちが襲い掛かる





な…何？



えん?...

ぽん!!

るん♡♡

おっぱい
触りたかったの？

こんな事したら
ダメだよ…

もみ

むにゅ

むにゅ

むにゅ

もみ



に……逃げられない

ふーっ

ふーっ

っ……このもなのに
力強い……

もみ

むにゅ

むにゅ

むにゅ

もみ



満足したら
解放してくれるかな…

なんて軽い考えで少年達の悪戯を
許そうとする三玖だったが…



気持ちいい…かも



乳首はちょっと…



男の子って
おっぱい好きだから

んっ

くっ…

これくらいは
するものだよね…



っり

っり

っり

っり

エスカレートしていく
少年達の行動に

三玖は戸惑い
だしていた





脚に何か
当たってる…

多分…
勃起してるんだ

ぬちゅ

ぬちゅ

ぬちゅ

ぬちゅ

んっ

んっ

んっ

んっ

ちゅちゅ



うう…
気持ち悪い…

早く終わって…

ぬちゅ

ぬちゅ

ぬちゅ

ぬちゅ

終わったの…

これで…満足
したのかな？

ふーっ

ふーっ

脚に感触が
まだ残ってる

気持ち悪い…

え：うそ：
これって：

おち○ちん…
こんなに大きいの？



少年の勃起した一物を
目の当たりにした三玖は

ようやく事態の深刻さに
気が付いた



ぬっぽ
ちゅ
ぬっぽ
ちゅ
ぬっぽ
ちゅ
ぬっぽ
ちゅ

ど……ど……ど……

早く逃げないと
このままだと犯される……

ぬっ
ちゅ

ぬっ
ちゅ

ぬっ
ちゅ

ぬっ
ちゅ

ぬっ
ちゅ



! ?

ニヤニヤ

ニヤニヤ

ほおお

これが精子の匂い

ふーっ

ふーっ

うっ…臭い…

と

ろ

お

お

お
お



少年達は三玖が暴れないように
太ももまでしっぴかり押さえ込んだ

待って……!!

これ以上は
ダメ……!!

三玖は静かに反抗するが
か弱い力では少年には敵わず

犯罪
なんだよ……!!



少年は三玖の恥部に
むしやぶりついた

三玖の恥部は乳首を
弄ばれた影響で
すでに愛液溢れていた





どうして
こんな事...

この子たち...
普通じゃない...

しっ
びく

びく

ちゅる

ちゅる

しっ

びく

びく

少年は三玖の
膣から溢れ出る

芳醇な愛液を
味わい続けた





舌が中で...

掻き回って

頭が痺れる...

体が動かない...

ふー

ふー

V

V

V

V



ダメ...

以上は.....

これ...

ふー

ふー

ふー

ふー

ふー

ふー

ふー

vo

vo

vo

vo

よかった…
終わった…た？

はーっ

えっ………？

はーっ

ビキ

ビキ

三玖の前に少年の
巨大なペニスが見れた

とろろ



それはダメ！

子〇もの
やる事じゃない！

あっ…
擦らないで…!!

ずり

ずり

ずり



やめて…!!

ずり

ずり

本当にダメ!

お願い…
聞いて!!

ずり

お

ああつ…
嫌つ

ああ

絶対に
挿入れちや…

おん



あーっ
あーっ

ふーっ

そんなんっ…
子供の…

ふーっ

おち○ちん…
挿入っっちゃった…

あーっ

あーっ



あーっ
あーっ

こんな事…
いけない…!!

ふーっ

抜いて…
お願い!!

ふーっ

あーっ
あーっ





外に出して...

外に出して...
中は...

中...
ため

フ

ビュウ



だ、

はー！

そんな...

ニョクニョク

中に...
出ちゃった...

はー！



嫌...

は！

妊娠したくない...

は！

ぐ

ぐぐ

ぐ

ぐぐ

シヨツク状態の
三玖にも構いなく

順番を待っていた少年の
ビキビキのイキモツが
三玖の前に現れる







全員で私の事…
犯すつもりなんだ…

ふーっ

ふーっ

ぬちゅ

ぬちゅ

ぬちゅ

ぬちゅ



また...
このままじゃ...
また...

激しい...っ

んっ

んっ

ずずずずずず
ずずずずずず

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

嫌っ…ダメ…

んっ

んっ

声が出ない…



パン

パン

パン

パン



んんん...

オオ
オオ

オホ
オケ

んん





中に...

そんな...
また出した...

はー!

はー!

トオあ

エト...

死んじやう……!!

逃げなきや…
全員の相手なんて
出来ないで…!!

はー!

はー!



ひく

ひく


ひく

ひく

ひく

ひく

ひく



三玖は力を
振り絞り

少年たちから
逃げ出そうとしたが

失敗に終わった

ダメだ…
逃げられない…

私のカじゃ
どうにも
ならない…

はー

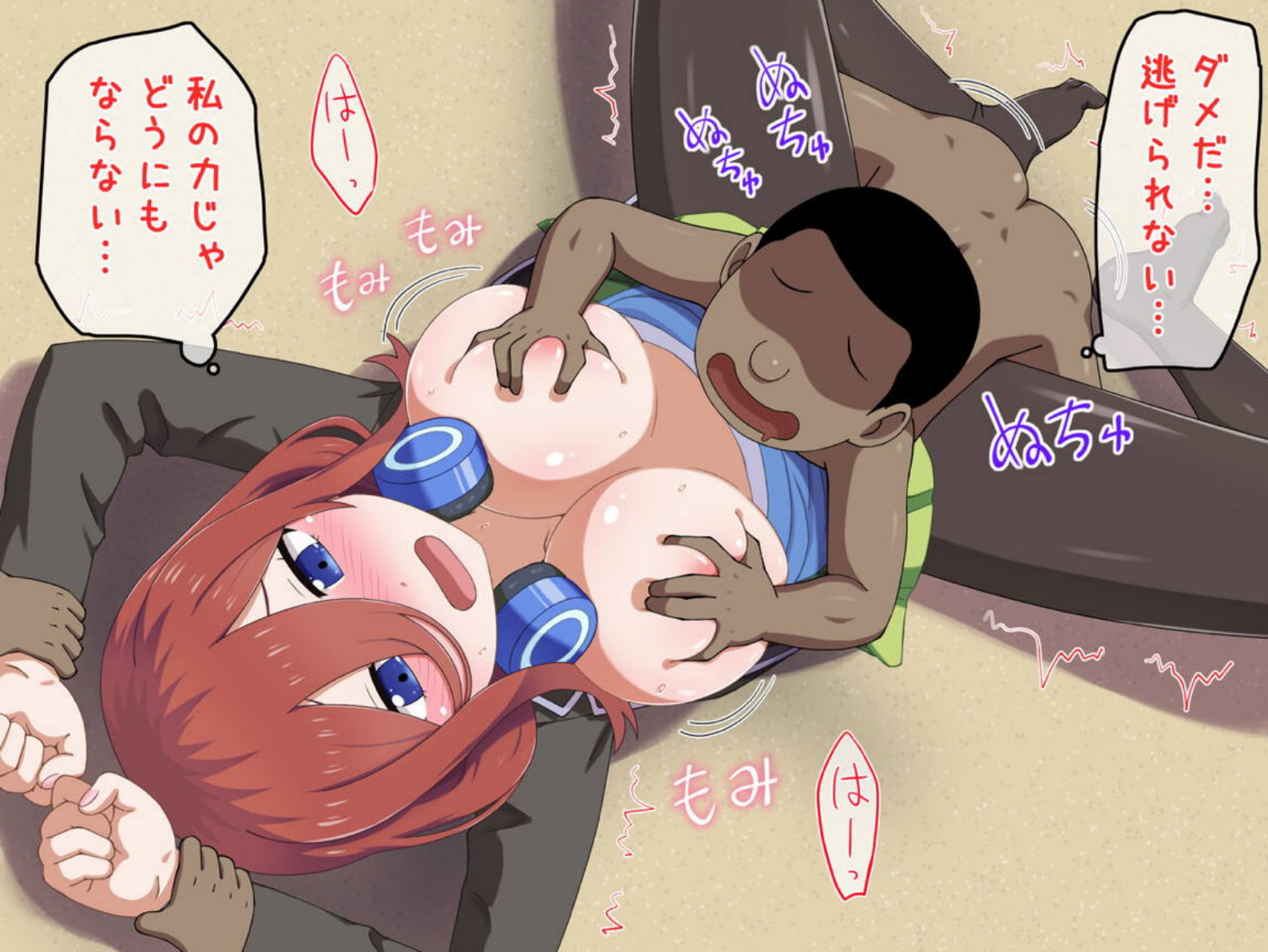
ぬちゅ
ぬちゅ

ぬちゅ

もみ
もみ

もみ

はー



三玖を抑えつける
少年の力は

より一層
強くなっている



絶対に逃がさない
つもりみたい…

ぬちゃ

ぬちゃ
ぬちゃ

もみ
もみ

もみ

ふー？

ふー？

どうしたら
いいの…



他に人…

ちやう

ちやう

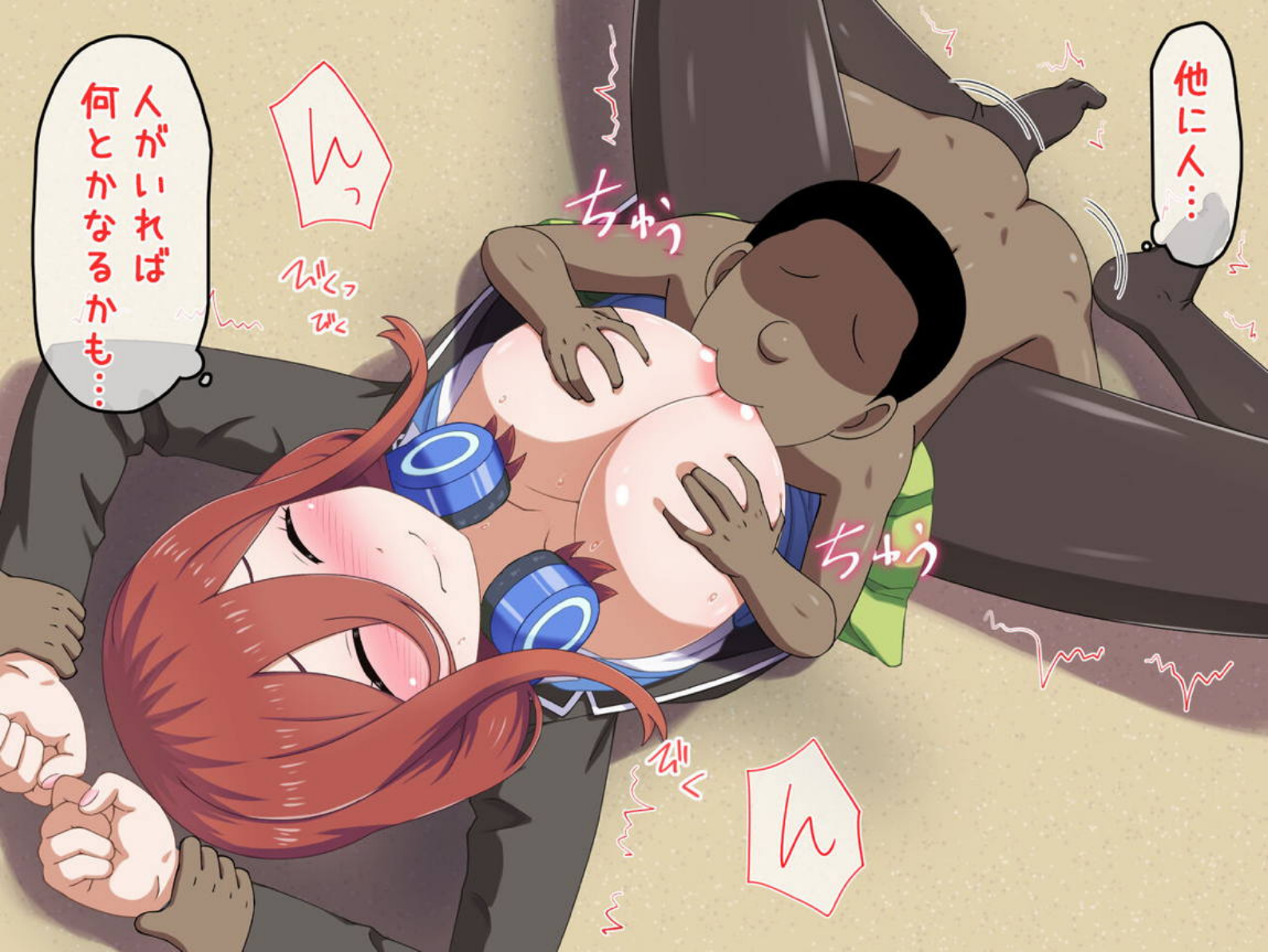
ん

ん

びくっ
びく

びく

人がいれば
何とかなるかも…



その前に

ちやう

ちやう

ん

ん

この子たちから
逃げないと...



ダメ…
やめて…

あ…
それ…

あ、

IP= ずんずん

ずんずん

IP= IP=

ずんずん

ずんずん

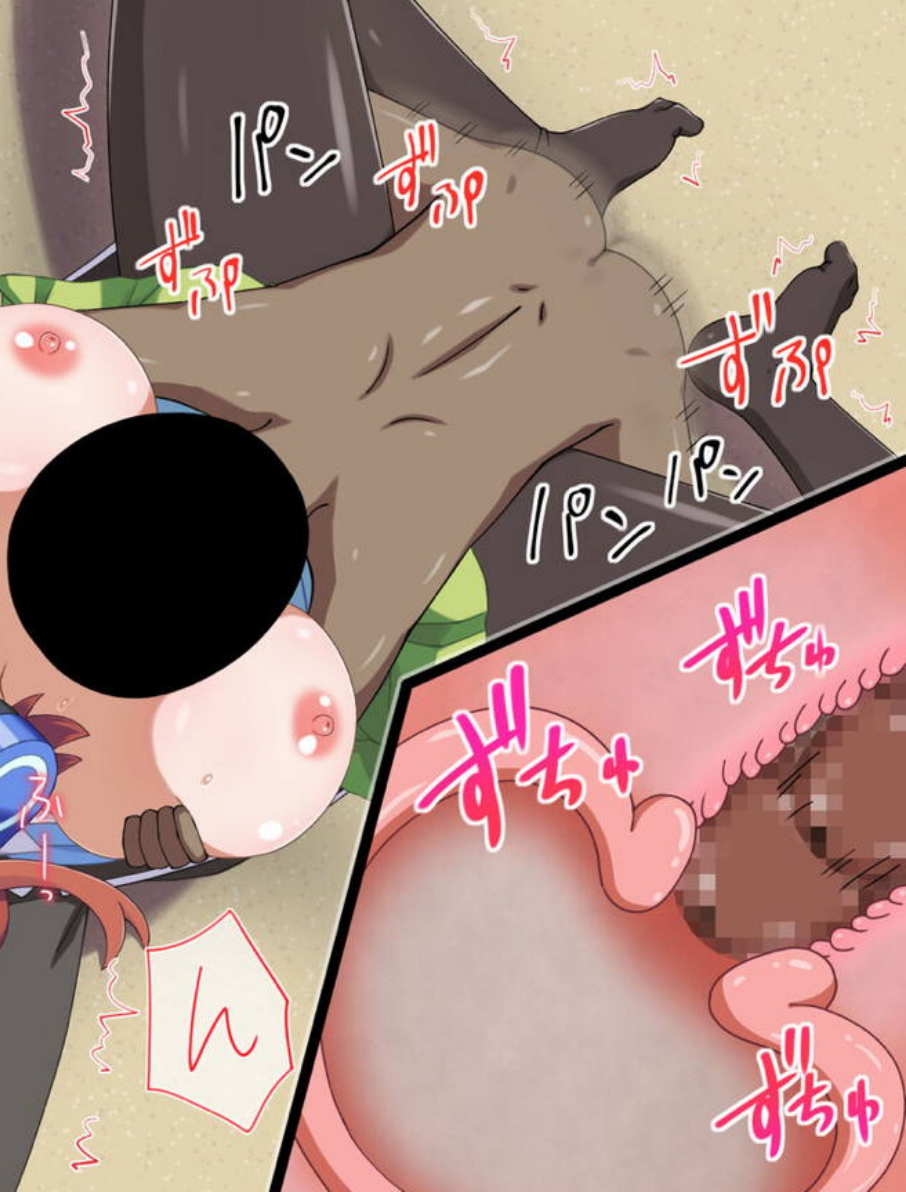
あ、

はー



奥突くの…
反則…

激しい…



IPン
すちすち

すちすち

IPン IPン

ん

ふー



すちすち

ん

すちすち

お願い…

これ以上はっ

中に…

出さないで…

すっすっ
すっすっ
すっすっ

すっすっ

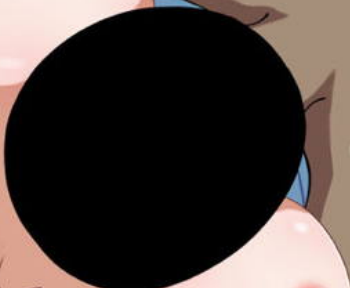
すっすっ
すっすっ

すっすっ

すっすっ

すっすっ

ふっ



ん

ん



嫌あ…っ!!

絶対に…ッ

本当に
ダメ…



ん

ん

すっ

すっ

すっ



지크

지크

지크

지크

지크

슈우슈우

슈우

지크

지크

지크

지크

지크

지크

지크

지크

지크

懇願虚しくも

少年の子種が
三玖の膣内に
注がれてしまっ
た



翌日：少年たちの
住処らしき所で
三玖は目を覚ました

疲れて眠って
しまっていたようだ



最悪…

起きて早々
こんな事するなんて

ふん
ふん

ふん
ふん

くわ

くわ

くわ

くわ



もう…好きに
すればいいよ

嫌って言っても
聞かないでしょ

ふん
くん

ふん
くん

くわ

くわ

くわ

くわ



んっ…何か
変な感じ…

おっぱいが
むずむずして…

ム
ム

ム
ム





母乳が出るなんて…

んっ

くっ…

妊娠した…わけ
じゃないよね…



将来出来るであろう
自分の子供よりも先に

見知らぬ少年たちに
母乳を飲まれてしまった
三玖は怒った



飲まないで…

ダメ…



vo

vo

vo

vo

ちやほ

ちやほ

ちやほ



妊娠…嫌だ…

ぬちゅ

ぬちゅ

ぬちゅ

ぬちゅ

ふー

ふー

ふー

ふー

ちゅちゅ

ちゅちゅ



好きでも無い人の
子供なんて
産みたくない…

んっ

んっ

ちゅちゅ

ちゅちゅ

ぬちゅ

ぬちゅ

ぬちゅ

ぬちゅ





逃げなきや...

今ならまだ
間に合う...

はー!

はー!

びん

どくん

どくん

びん

びん びん

びん びん

どろお

どろお
びん

逃げようとする三玖の
意思を感じたのか

少年は三玖を離さないよう
強く抑えつける





んっ

んっ

ダメだ...
全然隙がない...

ぬちっ

ぬちっ

ぬちっ

ぬちっ

ずっと犯される...

ハハハハハハハハ

あ、

あ、

パン

パン

パン

パン

パン

パン

パン





少年は三玖にしがみ付き
しっかりと射精する



イ千モツが
引き抜かれた三玖の

恥部からは濃厚な
性液が溢れ出す

？
…

ぬぽん





逃げられ
なくなる...

力が...
抜ける...

びー!

びー!

ひく

ひく

ひく

ひく

お...
お...

少年達は休むこともなく
三玖を輪姦し続けた





また...
母乳が...!

ふー

ぬちゅ
ぬちゅ

ぬちゅ
ぬちゅ

がやる

ぬちゅ

がやる

ふー

ぬちゅ
ぬちゅ



どうして…

気持ちいいの

母乳が
出ると…

はー

んっ
ん

ぬちゅ
ぬちゅ

がやる

ぬちゅ

がやる

んっ
ん

はー

ぬちゅ

ぬちゅ



あ

奥っ...
ダメ...

IPン すっ

すっ

IPン IPン

あ

すち+すち+

すち+

そんなにつ……
奥突いたら……
気持ち……
良すぎて……

ん

ん
すす

すす

ん ん

すす
すす

ん

すす



戻れなく
……な……

これ以上は……!

あっ!
イヤっ!!

あ、

あ、

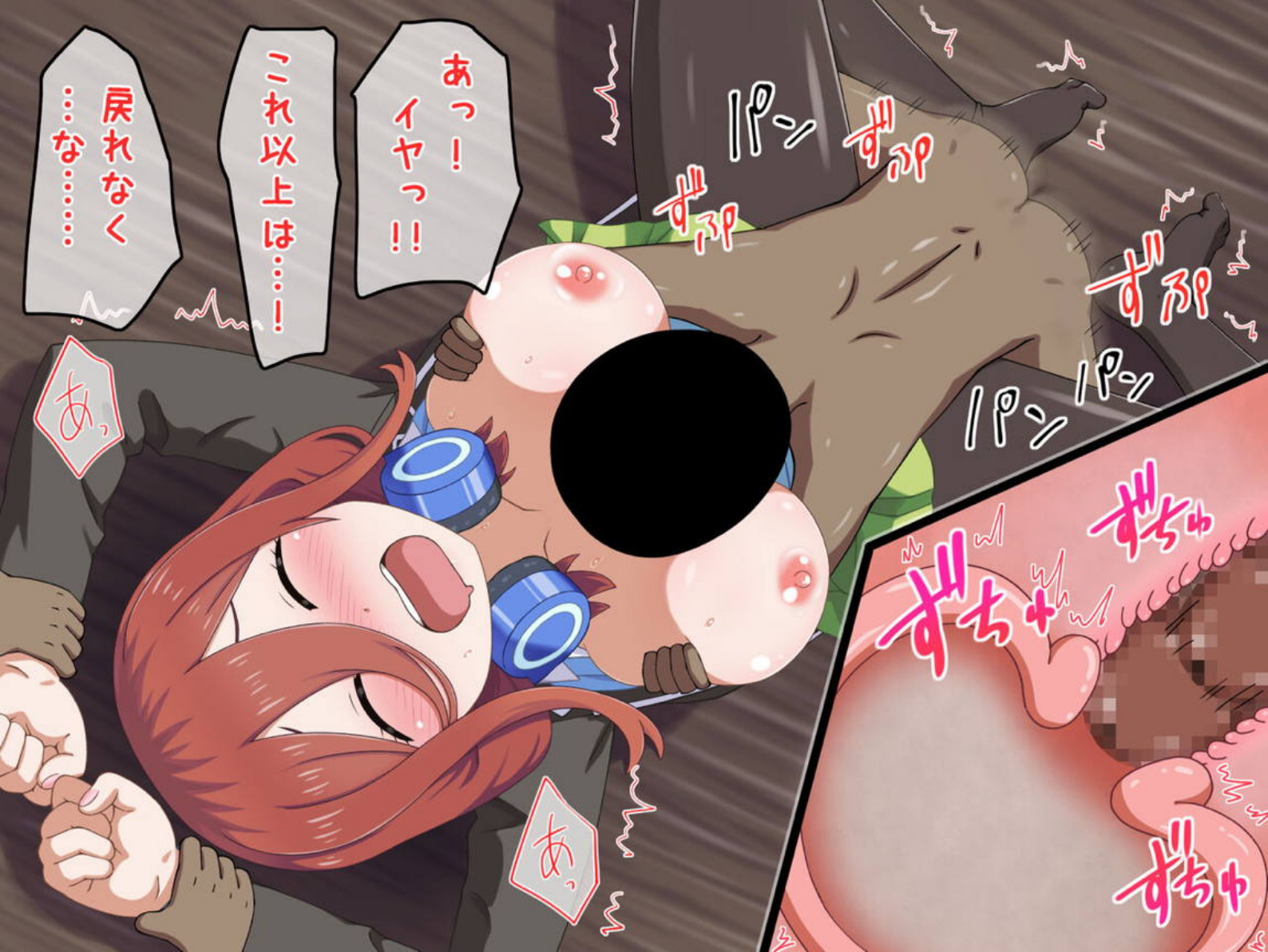
IP= ずるずる

IP= IP=

ずるずる

ずるずる

ずるずる





少年は三玖を
自分のメスにするために

しっかりと子宮に
直接その濃厚な
子種を流し込んだ



ここにきてどれだけの時間が
経ったのか：少年たちにどれだけ
犯されたのかわからない

それでも少年たちの精力は底無し
しかし三玖自身も
次第にこの状況に慣れつつあり

あ

あ

こす

こす

こす

こす

す 3P

ぬち+

す 3P

ぬち+

ぬち+

ぬち+

す 3P







嫌なのに…

はーっ

はーっ

どうしてこんなに
気持ちいいの…？



グッ
グッ

何で私…

両手におち○ちん握ってるの…？

はー

はー

シコ シコ

シコ シコ

シコ 3P 3P

シコ 3P 3P

ぐわんちゅ

ぐわんちゅ

ぐわんちゅ

ぬ3P

ぬ3P



これだとまるで

おち○ちんを
ねだってるみたい

ふー

ふー

ぽるん

ぽるん

ぐわんちや

ぐわんちや

ぐわんちや

ぬるん

ぬるん

ぬるん



おち○ちんなんか
好きじゃない！

やめないと…
離さないと



ダメ…体が
言う事聞かない…

どうして…
どうしてなの…??

あ

あ

びく

びく

ぷるん

ぷるん

あ
ちゅ
ちゅ

あ
ちゅ
ちゅ

あ
ちゅ
ちゅ

あ
ちゅ

あ
ちゅ

びく

びく

びく





その後も少年たちに
輪姦された続けた
三玖は意識を失った



翌日、少年たちに襲われることもなく

三玖はここに来て初めて平穏な朝を迎えた

なんか調子が良い気がする！

今なら何でも出来そう！

外に出ても少年たちは付いてくるが
無理に抑えつけようとはしない

そういうば：全然お腹が空かない

ここに来て何も食べていないのに：

水だって飲んでない：

どうしてだろう：

とりあえず水と食料を探しながら

島を探索する事にした

探索中…

少年に押し倒され



31!

31!

す

す

す

す

す 3P

あち+

す 3P

あち+

あち+

あち+

す 3P



こうなったら
抵抗できない

やっぱ
ダメ...

ふー

ふー

ぬち+
9,3P

ぬち+
9,3P

ぬち+

ぬち+

ぬち+
9,3P







体が受け入れ
ちゃってる...

へっ おおお

グッ
グッ

邪魔もあつたが
何とか無事に探索を終えた

水と食料は問題ないが
島に他の住民は存在はしないことが分かった

船：船が通れば…
他に脱出方法はなさそう
それまでの辛抱だ…

船を見逃さないように昼間は
浜辺で過ごす事にした三玖

しかし少年たちのぶら下がった
巨根に集中を欠いてしまう



おち○ちん見ちやうと
体が反応する…

ムラムラ
してきちやう…

あ、

あ、

シコ シコ

シコ

シコ

シコ
3P
3P

シコ
3P
3P

あ、
あ、
あ、

あ、3P

あ、
あ、
あ、

あ、3P

あ、3P

あ、
あ、
あ、

頭が変になっ
てる……

中に出される度

精子を浴びる度に

ひゅ

ん

ん

ひゅ

ぷるん

ぷるん

ずちゅ

ずちゅ

ずちゅ

ぬる

ぬる

ひゅ

ひゅ

ひゅ

ひゅ





あ

びび

びび

びび

びび

びび

びび

びび

びび

別の人格に乗っ取られていくような

自分が自分じゃ無くなっていく

おて

ねとま





え…二本同時…

はーっ

お尻にも挿入れる
つもりなの…？

ぢゅる

ぢゅる

ぢゅる

はーっ

ぢゅる

ビキ

ビキ

ビキ

ビキ

三玖は期待と不安で戸惑っていた

しかし少年たちは止まらない

ちゅちゅ

ちゅちゅ

ちゅちゅ

ちゅちゅ

ちゅちゅ

ん



あ
ちやちや

あ、3P
あ、3P

あ、3P
あ
ちやちや

入っちゃった...

何か...
変な感じ...



すごく……っ

気持ちいい……っ

こんなの……
初めて……

あ、あ、あ
ちやちや

あ、3P
あ、3P

あ、3P
ちやちや

船に…
集中できない…

お願い…今は
通らないで…

絶対見逃し
ちやうから…

ちや
ちや

ちや
ちや

ちや

ちや
ちや







と!!

らま〜

おまお

はー!!

はー!!

ああ...すげえこ...

いっぱい出たね...



こんな快感...

こーこーに来て
なかつたら

一生味わえ
なかつたのかも...

ちゅっ

ぢゅる

ぢゅる

ちゅっ



海の彼方に船が見えた
手を振れば 見えるかも知れない
三玖の目も船を捉えたが…



あ、

あ、

あ、

ぬち+

船…でも…
今は…

ぬち+

それどころじゃ
ない…から

ず、ず、

ず、ず、

ちる、ちる、ちる



31,

31,

あち+

あち+

あち,

あち,

あち

あち



イ
イ
ツ
ち
や
...

あ...!!



帰るチャンスよりも
目先の快楽を優先してしまった

しかし彼女に
後悔の念など無い

船なんて……
もういいや……

はー

はー



おちんちん
良いにおい

ぬち+

ぬち+

す、す、

す、す、

とっても
美味しそうな

はー、

はー、

ちる
ちる
ちる



家の中の方が
いいかも…

ぬち+

ぬち+

す、す、す、

す、す、す、

外だと船が
気になって
集中出来ない

ちる
ちる
ちる

ん、

ん、

ん、





これすごい...!!

脳が犯されてる
みたい...!!

ぬちっ

ぬちっ

ずっ、
ずっ、

ずっ、
ずっ、

んっ

んっ

んっ

ちゅる
ちゅる
ちゅる



三か所で同時に射精を受け
快楽に浸る三玖



私何で帰ろうと
していたんだろう

全然思い出せない…

こんなに気持ち
いい事ばかりだから

ここで暮らす方が
いいに決まってるのに…

ふー、


ふー、

ちゅる

ちゅる

ちゅる





性欲にまみれた三玖は
最早別人と化した

大切な人たちの
存在を忘れ
もうそれに
気づく事もない